

# エコアクション21 環境経営レポート

活動期間 2024年1月～2024年12月  
2024年度



株式会社 オートアベニュー  
2025年2月20日発行  
2025年3月25日改定

## 1 会社概要

|         |                                                                                                                                                               |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業所名    | 株式会社 オートアベニュー                                                                                                                                                 |
| 代表者氏名   | 代表取締役 伊藤 理香                                                                                                                                                   |
| 所在地     | 〒188-0011 東京都西東京市田無町7-18-8                                                                                                                                    |
| 環境管理責任者 | 飯野 勇                                                                                                                                                          |
| 連絡先     | 〒188-0011 東京都西東京市田無町7-18-8<br>TEL : 042-466-3233 FAX : 042-465-5101<br>E-mail: <a href="mailto:isamu-iino@auto-avenue.co.jp">isamu-iino@auto-avenue.co.jp</a> |
| 事業規模    | 社員数 24人<br>社屋床面積 680m <sup>2</sup><br>売上高 1,124 (百万円) (2024年度: 2024年1月～2024年12月)                                                                              |
| 適用範囲    | 全社・全組織                                                                                                                                                        |
| 事業内容    | 自動車販売・整備及び原付バイクの販売・整備、損害保険代理店業                                                                                                                                |
| 対象事業所   | 本社、工場兼倉庫                                                                                                                                                      |
| 所在地     | 東京都東久留米市下里6-2-31 (工場兼倉庫)                                                                                                                                      |

## 2 環境経営方針

### 環境理念

地球環境保護、二酸化炭素排出量削減が世界的に叫ばれる現在、当社の企業活動を通じ、この緑豊かな武蔵野台地の環境を守り、地域社会に貢献できる企業を目指します。

環境問題は、自動車整備・販売に携わる事業者の最重要課題です。自社における二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、使用水量の削減に取り組むと共に、顧客へのエコ整備の普及・促進を通じて、燃料消費率向上による二酸化炭素排出量の削減や、排出ガスの清浄化を目指します。また、低公害車の販売に努め、地球環境及び地域環境の保全に配慮し、継続的改善に取り組んで行動します。

### 環境行動方針

当社は、環境との共生・調和を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち全従業員をあげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組みます。そのために、以下の「環境行動方針」を定めます。

#### (1) 二酸化炭素排出量・削減の推進

事業活動に於ける電力・ガソリン・軽油などの削減による二酸化炭素排出量の低減に努めます。また社用車においても、急発進、急加速、急停止などを排除し、やさしい運転に努め、エコドライブを励行し自動車使用による環境負荷の低減に努めます。

#### (2) 廃棄物排出量・削減の推進

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために、分別処理を徹底し、リサイクル化を推進します。

#### (3) 総排水量・削減の推進

事業所内で使用する使用水量の削減により、総排水量の削減に努めます。

#### (4) エコ整備・エコ車検の推進 (お客様における二酸化炭素の削減)

自動車における燃費の向上による削減や、有害な排出ガスの削減を目ざし、エコ整備・エコ車検を強力に推進します。そのために、エコ整備の有用性についての説明に努めます。

#### (5) エコカーの販売促進 (お客様における二酸化炭素の削減)

大気汚染物質の排出が少なく、環境への負担の少ない車両を積極的に販売していきます。  
そのために、エコカーに限定したチラシを作成し、販売促進に努めます。

#### (6) リサイクル活動による省資源化の推進

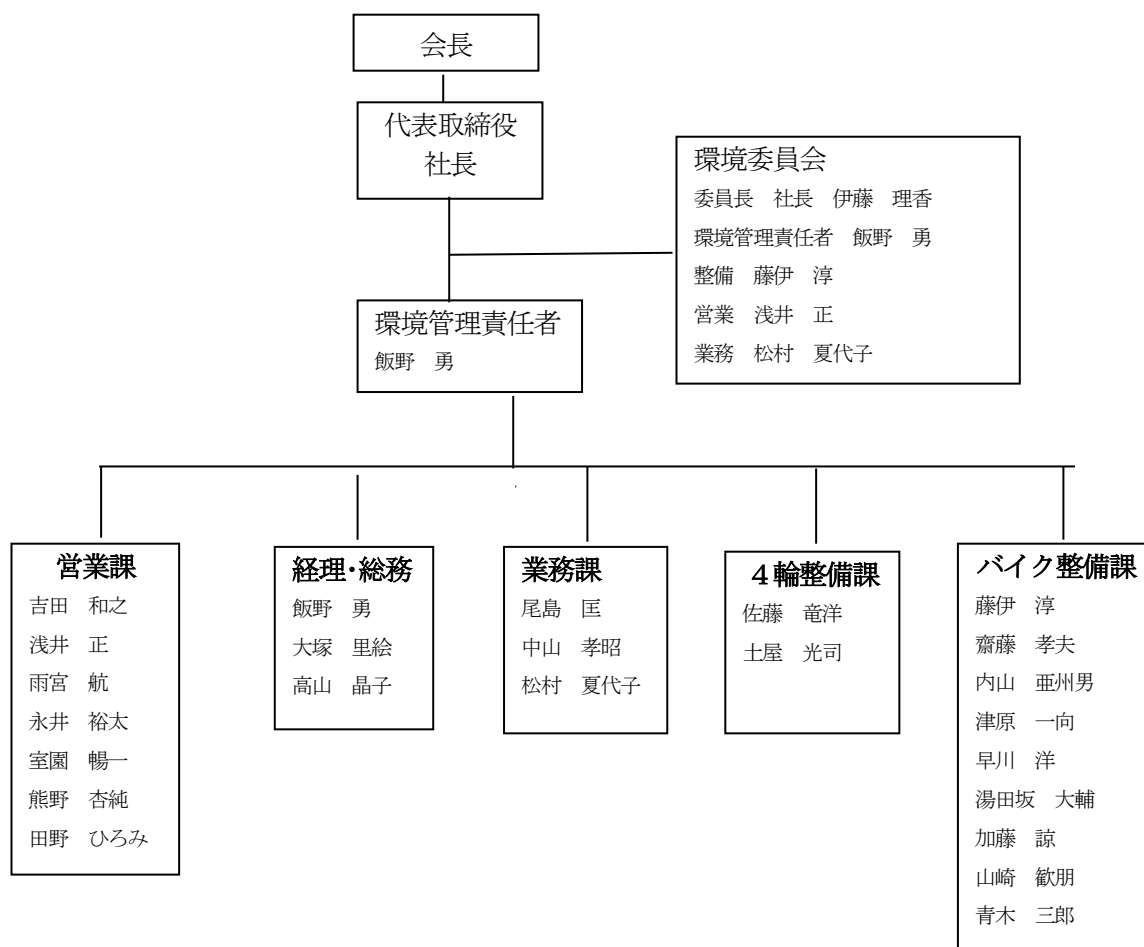
省資源のために、リサイクルの自動車部品及び三輪バイク部品の使用を積極的に推進します。  
プラゴミのリサイクル回収を推進します。

#### (7) 環境関連法規制等の遵守

環境関連法規制等を遵守することを誓約します。

平成21年3月1日制定  
令和2年1月1日改定  
株式会社オートアベニュー  
代表取締役 伊藤 理香

### 3 環境管理組織



#### 取締役会長

1. 記録・報告及び見直し記録に対する全般的な指示をする。  
月に一度の各エコチームリーダーの取りまとめた数字に基づき、全社としての取り組みを把握し、更なる社員の啓蒙活動への指示を文書にて行い指示記録を保管する。

#### 代表取締役（当社の環境経営最高責任者として次の役割を負う）

1. 環境方針を定め、効果的な実施体制を構築する。
2. 環境経営システムの実施・運用のための経営諸資源を準備する。
3. 環境目標、実施計画の承認。環境経営マニュアル及び規定類の制定・改訂の承認。
4. 全体の評価と見直しを実施する。
5. 課題とチャンスの明確化

#### 環境管理責任者

1. 環境委員会を運用・維持管理する責任として、環境経営システムが全ての部署で確実に実行、維持されるための必要な活動の管理と推進をする。
2. 環境経営マニュアルの作成、改訂を行う。
3. 会長に環境経営システムの実績の報告及び見直し記録を報告する。

#### 環境委員会

代表取締役を委員長とし、環境管理責任者及び会長から選任された委員で構成し、環境方針、環境目標、実施計画、教育訓練計画等会社の環境に関する事項の審議、立案及び運用状況の評価等を行う。

#### 従業員

日常の作業において、環境方針に基づき、環境管理システム規格類及び関連する法規制とその他の要求事項の順守。

## 4-1 環境経営目標と実績

運用期間（2024年1月から2024年12月：12ヶ月間の実績）運用期間%は目標に対して

| 環境負荷                |                     | 単位            | 基準期間実績                     | 2024 年度目標           | 運用期間                       | 評価      |
|---------------------|---------------------|---------------|----------------------------|---------------------|----------------------------|---------|
|                     |                     |               | 2020 年 1 月<br>～2020 年 12 月 |                     | 2024 年 1 月<br>～2024 年 12 月 |         |
| 購入電力                |                     | kWh           | 46,000                     | 63,000              | 56,066<br>111%             | ○       |
| 化石燃料                | ガソリン                | ℓ             | 6,704                      | 9,000               | 6,566<br>127%              | ○       |
|                     | 軽油                  | ℓ             | 5,582                      | 11,000              | 8,381<br>123%              | ○       |
|                     | 灯油                  | ℓ             | 876                        | 800                 | 782<br>97%                 | ○       |
| CO2 排出量             |                     | kg-CO2        | 53,961                     | 48,000              | 51,112.36<br>93%           | ×       |
| 水道・排水量              |                     | m³            | 322                        | 数値目標設定せ<br>ず節水に心がける | 235<br>-                   | -       |
| コピー用紙               |                     | kg            | 475                        | 500                 | 492<br>101%                | ○       |
| 一般<br>廃棄物           | 可燃、資源               | kg            | 数値目標設定せ<br>ず削減に心がける        | 排出量実績値              | 61<br>-                    | -       |
| 産業<br>廃棄物           | 金属廃棄<br>物           | kg            | 1,050                      | 1,000               | 3,842<br>26%               | ×       |
|                     | 廃プラスチック<br>(ボックス含む) | kg            | 17,419                     | 37,000              | 38,675<br>95%              | ×       |
|                     | 汚泥                  | kg            |                            |                     |                            |         |
| エンジン洗浄促進台数          |                     | 台             | 3                          | 数値目標設定せ<br>ず実数把握    | 2<br>-                     | -       |
| 低公害車販売台数<br>(中古車含む) |                     | 台             | 246                        | 130                 | 129<br>99%                 | ×       |
| エコドライブの実施           |                     |               | エコドライブの実<br>施              | エコドライブの実<br>施       | 実施                         | -       |
| エコ対応<br>製品販売数       | エコタイヤ               | 本             | 498                        | 500                 | 508<br>101%                | ○       |
|                     |                     |               |                            |                     | 2,668 千円<br>133%           | ○       |
|                     | 添加剤類                | 仕入金額          | 1,704 千円                   | 2,000 千円            | 466 千円 103%                | ○-<br>- |
|                     |                     |               |                            |                     | 79 台                       |         |
|                     | 四輪ベルト・<br>二輪部品取     | 仕入金額<br>バラシ台数 |                            | 450 千円<br>-         |                            |         |

\*エコ製品の販売欄に関しては、目標達成率としています

東京電力のCO<sub>2</sub>換算係数は、0.474 kg-CO<sub>2</sub>を使用

リコージャパン(株)は再生可能エネルギーの為CO<sub>2</sub>換算係数は、0.000 kg-CO<sub>2</sub>を使用

エコ対応製品販売数の二輪部品取は、2024年度より中古バイクのバラシ台数に変更

目標値に対し 運用期間中各々の10%超の増減要因は下記の通りである。

#### 目標達成原因

##### 購入電力

本社工場の建替中は建築会社が電気料を負担していた為、実質購入電力が目標値に対して減少した。

##### ガソリン

二輪整備士の1名退職により、自社メンテエリア（一部外注へ変更）が縮小しガソリンの使用料が目標値に対して減少した。

##### 軽油

自社配送を年間2名体制の目標値としていたが、1月から4月の稼働が1名体制に変更された為目標値に対して減少した。

##### エコ対応製品販売数（添加剤類）

四輪整備の売上が2023年度比（2023年度49,377千円、2024年度62,158千円）が大幅に増加したためお客様へのご提案も増え添加剤の使用も増加した。

#### 目標未達成要因

##### 産業廃棄物（金属廃棄物）

今後の中古バイクの再生整備用として、部品取のバイク台数が増加したため金属廃棄物が増加した。  
また、本社工場が完成し四輪整備を東久留米から本社工場に戻した際の廃棄物も発生した。

## 5 環境経営活動計画

### 5.1 二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量

CO<sub>2</sub>の排出起源は電力と化石燃料使用量に限定されるので目標としては電力と化石燃料の削減とする。  
2024年度の換算係数は、目標値48,000に対し運用実績51,112.36と目標対比93%となった。これは、工場を建替えしている期間、リコージャパンの再生可能エネルギーから東京電力に契約をへんこうしたことにより、電力の使用量自体は減少したもののCO<sub>2</sub>の排出量が増加したことに起因する。

### 5.2 電力

電力に関しては、本社工場の建替完成により2025年度中に購入電力の契約を東京電力から再度リコージャパン株式会社（再生可能エネルギー）へ切替、更なるCO<sub>2</sub>削減に努めます。

### 5.3 化石燃料

灯油：事務所のエアコン入替により2024年度は灯油の使用を控えることが出来た。2025年度も引続き継続する。  
本社工場、二輪工場でのストーブ使用は、可能な限りこまめな温度設定を行い灯油の減少に努める。  
ガソリン：ガソリンの使用に関しては、代車や納車引取が主となり対応は難しいが、効率等を配慮した使用方法を実施し、引続きガソリンの使用量削減に努める。  
軽油：軽油の使用は、エルフ（ローダー・2tトラック台）の4台のみである。  
効率性を考慮するように努める。  
2025年度にジャイロのオークション業者を変更する予定の為、今までの自社搬入が不要となりオークション業者の引取となるため、軽油の使用量が減少する見通しです。

### 5.4 廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量は、主に分別によるリサイクルの推進を徹底し、以下の通り排出量削減に努めていく。  
但し、廃プラスチック排出量に関しては、メインの顧客先のバイク用ボックスサイズが一部変更になったことにより、再生利用率が減少し廃棄以外の策が取れないのが現状である。  
金属廃棄物排出量は、引き続き金属の買取業者に売却していく。  
できる限り中古部品に利用し金属廃棄物の減少に努める。

#### ① リサイクル用に回収

- ・缶・ペットボトル・紙（ダンボール含む）などに加え、弁当容器などのリサイクル可能なプラスチックを分別し、リサイクルとして業者へ回収してもらう
- ・金属類に関しては、専門買い取り業者へ売却する

#### ② リユース

- ・社内の再利用可能物品を有効に活用する。  
裏紙などを積極使用する  
保管期限満了の資料を破棄する際にファイルなどを再利用する

- ・FRP製のパーツは修復再生可能なものを再利用していく。

#### ③ DX

- ・書類をデーター化し、ペーパーレス化に取り組んでいく

#### ④ 廃棄物収集運搬／処理事業者との契約（その際 事業許可証の確認）、マニフェスト管理の完全実施

### 5.5 水道・排水量の削減

目標 車両の販売台数や整備の入庫台数が増加すれば当然水の使用量は増加せざるを得ないが、以下の対応を心掛け少しでも使用料を抑えていく。

- ④ 資源節約のため、全員で節水に努める（節水の注意書きを貼る）。

- ⑤ 圧調整を図り、水の流し過ぎ等の無駄を抑制し、常に節水に努める(節水ゴマの設置)。
- ⑥ 雨水の貯留タンクは設置済のため再度、社員に雨水利用を徹底する。
- ⑦ 水漏れ箇所の点検・修繕

## 5.6 エコ整備の推進

エンジン洗浄以外においてもエコ整備としての取り組みを更に進める。

- ①エコ整備の有用性について知識を習得し、わかりやすい説明やエコ整備技術向上に努める
- ②エコ整備、エコ車検の技術講習会への参加、社内での勉強会の開催
- ③エコ整備、エコ車検の認知度向上に努める  
ポスター掲示など。顧客へのPRツールの作成・調査・研究
- ④エコ整備、エコ車検による燃費向上、排出ガス削減を認知してもらうようエコ整備のパック商品、などを今後検討していく。

## 5.7 低公害車・次世代車両の販売の推進

日進月歩の最先端技術搭載車両に関する知識を日々アップデートし、販売増を目指す。

- ①低公害車の販売を積極的に推進する
- ②衝突回避安全装置付きのサポートカーの販売も積極的に推進する
- ③同知識の習得
- ④顧客へのメリット説明に努める

## 6. 今年度以降の目標（次年度の取組内容）

2020年度実績数字を基準年度として4年間の環境負荷低減の目標を記載する。

| 環境負荷                          |             | 単位                  | 2020 年度実績                 | 2024 年度                   | 2025 年度                   | 2026 年度                   | 2027 年度                   |
|-------------------------------|-------------|---------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
|                               |             |                     | 2020 年 1 月<br>～2020 年12 月 | 2024 年 1 月<br>～2024 年12 月 | 2025 年 1 月<br>～2025 年12 月 | 2026 年 1 月<br>～2026 年12 月 | 2027 年 1 月<br>～2027 年12 月 |
|                               |             |                     |                           |                           |                           |                           |                           |
| 電 力                           |             | kWh                 | 46,038                    | 63,000<br>以下              | 63,000<br>以下              | 63,000<br>以下              | 63,000<br>以下              |
| 化石<br>燃料                      | ガソリン        | ℓ                   | 6,704                     | 9,000<br>(以下)             | 8,000<br>(以下)             | 9,000<br>(以下)             | 9,000<br>(以下)             |
|                               | 軽油          | ℓ                   | 5,582                     | 11,000<br>(以下)            | 10,000<br>(以下)            | 10,000<br>(以下)            | 10,000<br>以下              |
|                               | 灯油          | ℓ                   | 876                       | 800<br>(以下)               | 900<br>(以下)               | 900<br>(以下)               | 900<br>以下                 |
| CO <sup>2</sup> 排出量           |             | kg- CO <sup>2</sup> | 53,961                    | 48,000<br>(以下)            | 49,000<br>(以下)            | 49,000<br>(以下)            | 49,000<br>以下              |
| 水道・排水量                        |             | m <sup>3</sup>      | 322                       | 数値目標設定<br>せず節水に<br>心がける   | 数値目標設定<br>せず節水に<br>心がける   | 数値目標設定<br>せず節水に<br>心がける   | 数値目標設定<br>せず節水に<br>心がける   |
| コピー用紙                         |             | kg                  | 475                       | 500<br>(以下)               | 500<br>(以下)               | 500<br>(以下)               | 500<br>(以下)               |
| 一般<br>廃棄物                     | 可燃          | kg                  | 245                       | 排出量実績値                    | 排出量実績値                    | 排出量実績値                    | 排出量実績値                    |
| 産業<br>廃棄物                     | 金属廃<br>棄物   | kg                  | 1,050                     | 1,000<br>(以下)             | 3,000<br>(以下)             | 3,000<br>(以下)             | 3,000<br>以下               |
|                               | 廃プラ<br>スチック | kg                  | 17,419                    | 37,000<br>(以下)            | 35,000<br>(以下)            | 35,000<br>(以下)            | 35,000<br>以下              |
| エンジン洗浄<br>促進台数                |             | 台                   | 3                         | 数値目標設定<br>せず実数把握          | 数値目標設定<br>せず実数把握          | 数値目標設定<br>せず実数把握          | 数値目標設定<br>せず実数把握          |
| 低公害車販売台数<br>(中古車含む)           |             | 台                   | 246                       | 130<br>(以上)               | 120<br>(以上)               | 120<br>(以上)               | 120<br>以下                 |
| エコ対応製品販売数<br>エコタイヤ            |             | 本                   | 498                       | 500<br>(以上)               | 500<br>(以上)               | 500<br>(以上)               | 500<br>以上                 |
| エコ対応製品販売数<br>添加剤類             |             | 仕入額<br>単位:千円        | 1,704                     | 2,000<br>(以上)             | 2,300<br>(以上)             | 2,300<br>(以上)             | 2,300<br>以上               |
| エコ対応製品販売数<br>四輪リビルト・<br>二輪部品取 |             | 仕入金額<br>単位千円        | 510                       | 500<br>(以上)               | 500<br>(以上)               | 500<br>(以上)               | 500<br>以上                 |
|                               |             | バラシ台数               | 287                       |                           | 70<br>(以上)                | 60<br>(以上)                | 60<br>以上                  |

2025年度より二輪部品取を部品個数からバイクバラシ台数へ変更

## 7 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

## 7.1 適用となる主な環境関連法規

当社の適用する環境関連法規は以下の項目です

- 1、 廃棄物処理法
- 2、 グリーン購入法
- 3、 東京都の都民の健康と安全を確保する環境に関する条例
- 4、 自動車リサイクル法
- 5、 東京都火災予防条例30条
- 6、 西東京市環境基本条例
- 7、 フロン排出抑制法
- 8、 自動車NO<sub>x</sub>・PM法

## 7.2 違反、訴訟等

環境関連法規制／その他要求事項について期間中の違反事項はありませんでした。

また、過去3年間に於いて関係機関等からの法規制違反の指摘及び訴訟などの請求はありませんでした。

## 8 環境経営活動の取組結果評価と見直し及び次年度の取組み

エコアクション21の認証 登録より15年が経過し、社員全員の努力や環境の変化、自動車、照明、事務機器等々の入替により各環境負荷において、当初の二酸化炭素排出量より削減されている。

今後は、時代の変化に沿った環境対応の最先端技術を搭載した車両の販売、整備を立替予定の新整備工場で実施していく。

### 8.1 CO<sub>2</sub>（電力の削減）

エコアクション21の認証 登録より今までに、展示場の水銀灯をLEDに変更・展示場のネオン管をLEDチューブに変更、工場建替により工場の照明がLEDに変更・現在一部の電力の実質再生可能エネルギーへの切替、社員の意識による不使用時の消灯などを実施し、結果二酸化炭素排出量の削減が数値となって表われている。

また、事務職の残業削減により退社時間が早くなり、電力使用の削減に寄与している現状を引き続き継続する。しかしながら、新工場の2階部分に法人営業部を移したことにより、事務スペースが拡大し複合機（省エネタイプ）も2台となったため、今後事務スペースの電力消費は増加傾向にあると思われる。

### 8.2 水道

整備車両入庫台数や販売台数が増加すれば、自然と水道の使用量が増加する傾向にある。

しかし、雨水タンクの利用、洗車方法を含め、今後も節水意識を持ち続けていく。

### 8.3 コピー用紙

車両管理台数の増加により自賠責保険証コピー枚数も増加している。保険会社システム上データと保険証券控えとの照合にてダブルチェックを行い、その後、経理部門にて部門別に仕分け処理を行うために現状では紙による保管が必須になってしまっている。

イベントやキャンペーンなど告知用の既存客へのDMをLINE登録いただいたお客様から削減していく努力を行っていく。

また、複合機の入替によりパソコンより印刷指示を出したものが直接印刷されずに複合機にて再度内容を確認した上で印刷をすることによりミスによる紙の無駄を省いていく。

また、今後はより多くの書類に関し更なるデーター化を推し進めていく。

### 8.4 廃棄物

現在、紙（段ボール含む）・ペットボトル・缶・弁当用プラ容器・金属のリサイクル回収を実施している。

引き続き継続し環境に配慮する。

産業廃棄物については、特に廃プラスチックのバイク用ボックスが取引先によるボックスサイズ変更により再生利用が出来なくなり大幅に増加した。

今後、ボックスの再利用を含め、その他産業廃棄物の削減の方法を検討する。

### 8.5 エコ整備・エコ車検

エンジン洗浄は、低年式車両にお乗りのお客様を対象としており元々分母が小さい上、コスト面などで、お客様の

承諾が得られず施工に至るケースが少ない。

タイヤは、現状ではすべての商品がエコ対応をしているため、更なる販売数量の拡大をめざし、且つエコタイヤの中でも、環境性能にフォーカスしたタイヤの販売数量が増加するように努力を続けていく。

燃料添加剤の販売促進は、声掛けを今後も続けていき、性能や効能等を分かりやすく説明する努力をし、更なる目標を達成できるよう努める。

自動車のリビルト・中古部品に関しては、より一層お客様への説明を丁寧にしていく。

3輪バイクの事故修理に関しては、自社にて作製しているリサイクルパーツを積極的に利用している。但し現在、整備部門の人手不足によりニーズに見合ったリサイクルパーツの作製にかかる時間を割くことが難しくなっている。今後は整備部門の人員充足を目指し問題を解決していく。目標数値は、バイクのリサイクルパーツ確保の為、中古バイクのバラシ台数の数字に修正を行った。仕入金額数字は、自動車部門のみの数値となっている。

## 8.6 低公害車販売促進

実際に販売した車両は全てエコ対象車であった。

2024年度も新車の長納期化は改善されず、売上計上までの日数がコロナ過以前より長期化している厳しい環境が続くが、更なる販売努力を行い新車販売台数を増やすことによる低公害車販売促進につなげていく。

今後もハイブリッド車、EV車などを含む新車の販売台数の増加に努力する。

中古車に関しても、自動車業界の流れから大半が低公害車に入れ替わってきており、低年式自動車の入庫が減りつつある。

## 8.7 次の1年へ向けての取り組み計画

自動車業界全体としては、100年に一度の変革期と言われ、電動車、水素車、自動運転車、衝突安全ストップ車など次世代の車両の開発が進みます。まずは民間企業としては、その変革の中で淘汰されないような存続の努力が第一となっておりますが、新技術の車両に関してもどのような環境への取り組みが出来るかを今後も鋭意努力しながら、探って参りたいと思っております。

車検法の改正など今までになく、業界としての大きな変化が生じているが、2024年度は整備工場の建替が完了となり、最先端技術搭載の車両整備に対応していける工場を目指して参ります。

また、東京都が2030年までにガソリンバイクの新車販売をガソリン乗用車は2035年までに新車販売をゼロにすることを目指すと表明していることに対応すべく、EV・PHEV・水素などの新しく開発される車両の情報を逃さず収集し、計画に取り込んでいきたい。

2020年から始まったコロナ禍において需要が増大したデリバリーバイクの整備に関しては、全国の提携工場約90社に保守委託をしていることもあり、整備、事故修理などに必要とする部品を自社のみならず、他社用として支給することが多々ありますが、それら部品を新品ではなく、廃車予定のバイクより外し自社にて再生したリサイクル部品や、OHエンジンなどを支給するような取り組みを本格化し5年が経過しております。今後、この部分を更に伸ばし、環境に優しいバイク整備を提携工場分も含め、取組んでいきたい。

また、バイクの電動化にあたっては自動車と違い、既存メーカー以外のスタートアップ企業が数多く市場に参入してきているが、それらの情報を収集すると共に、実際に業務提携などを行っていきたい。

コロナ禍を経て、人々の購買行動がECサイトで行うことへの抵抗が減少してきている。今後は事業存続のためにも社会の変化に対応していきたい。

日本の行政の中で最高水準の一般ゴミのリサイクル率を誇る西東京市に存在する企業として、弁当容器のリサイクルを継続するなど、事業ゴミの削減努力をより一層していきたい。

また、事務所内のゴミの分別をより一層厳しく行い、リサイクルゴミが一般ゴミと混在しないよう徹底して参ります。

また、2024年度から西東京市の環境審議委員に再度任命されたこともあり、環境審議委員会で得た新しい環境に対する取り組みなどの知識も積極的に取り入れていきたいと考えている。今後は地域にて営業活動を行っている企業として、他の異業種企業とも連携する道を模索しつつ、微力ながら、地域への貢献といった地道な努力を継続していき、社員の環境への更なる意識向上と共に、地域住民の皆様にも当社の環境への取り組み姿勢を理解し

て頂くよう環境基本方針に基づき、より一層環境問題に取り組む姿勢を内外に示して参ります。

## 9 代表者による全体の評価と見直し

### 9.1 経営システム

経営システムは順調に働いているが、100年に一度の変革期と言われる自動車・バイク業界としては法改正などが多く行われており、それら新しい制度に順次対応していく。

### 9.2 環境方針

方針そのものは、企業活動に見合っているなので、このまま継続する。

### 9.3 環境目標

環境への取り組みも、経済活動を行いながら継続していくと、数値を減少させていくだけでは、限界がある。今後は、営業活動と共存できる方向で、環境に優しい商品・サービスを提供していく方向に重点を置いていきたい。エコタイヤ、添加剤関連の商品の販売実績を今後も伸ばせるように社員にも改めて教育指導を行っていく。また、廃車予定のバイクより再生したリサイクル部品の利用に関し自社工場のみならず提携工場への支給を含め、積極的に取り組んでいくようにする。

また、新整備工場には、充電ステーションも設置したので、EV車の普及にも対応可能になっている。

代表である私自身も2012年より市長への諮問機関である西東京市環境審議委員会の委員として、約6年に亘り活動をし2018年5月をもって任期満了となったが、2024年度より再度、環境審議委員に任命されたこともあり、今後もそこで得た新しい環境への取り組みなどの知識を積極的に取り入れ、地域との連携などを考えていきたい。

### 9.4 環境活動計画

環境活動は、計画通りに推移しているので計画通りに継続する。

#### <取り組み状況>

東京電力から実質再生可能エネルギー100%の電力を購入するリコー・ジャパン(株)との契約に切り替えた



雨水タンクの設置により雨水の有効利用



法務局や車庫証明書提出に警察署に行く際は自転車で！



工場内でもごみは細かく分別を行う。

工場内の紙ごみは一旦工場を集めてから  
集積所に運ぶルールとなっている。



金属ゴミは専門業者が買取りを行う



事務所内のゴミも一旦、事務所内で分別を行っている。



工場内・事務所内で分別したごみは敷地内集積所の分別されたゴミ箱に入れた後、専門業者が定期的に回収する



東京消防庁西東京消防署西原出張所に依頼し、火災発生時の訓練、指導を受けた



環境対応車の販売を積極的に行っている

廃バッテリーは専門業者が定期的に回収する



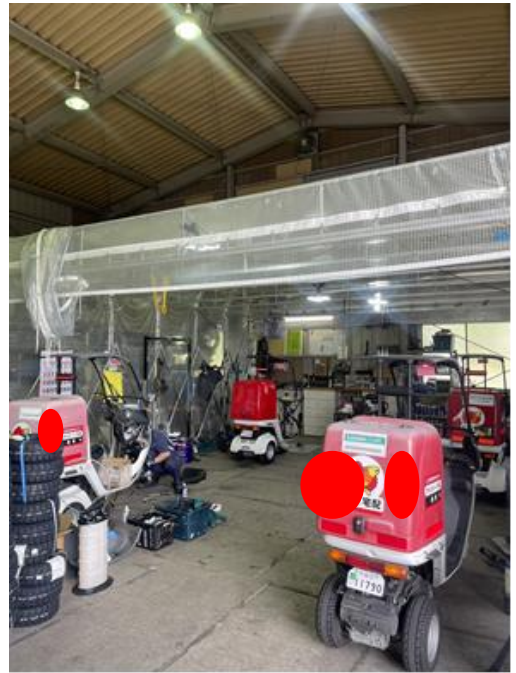
### デリバリーバイク用リサイクル部品の作成・在庫管理

カウル・リヤカバー・ボックスなどの大型部品に関し、廃車予定のバイクから外し、洗浄、ペイントなどを施し自社にて中古部品の再生をしている。バイク整備工場の屋根が高いため、自分達で上部空間にリサイクルパーツ置き場を作り、管理を行っている。



廃車予定の車両からエンジンを下ろし、OHを行っている。以前はリサイクルエンジンを常に3基準備していたが、車両の管理台数の増加に合わせ現在は15基を常に用意している。

天井の高いバイク整備工場は、暖房効率が悪かったが、ビニールテントを工場内に設置することで、作業スペースだけ効率的に暖めることが出来るようになった。



株式会社オートアベニュー  
代表取締役社長 伊藤 理香